



黒崎政男

哲学者・東京女子大学教授

Number **03**

西洋のなかの仏像

フィロソフィー (philosophy)。古代ギリシャ起源のこの言葉は、もともと知 (sophia) を愛する (philo-) という意味だが、我が国では明治時代に、西周^{にしきま}によって初めて「哲学」という訳語が与えられた、というのが哲学史の定説である。しかし最近、安土桃山時代のキリシタンものを調べていて、羅葡日辞典 (ラテン語⇨ポルトガル語⇨日本語⇨辞典) (1585 Anacusa) なる、天草で印刷された辞典の複製版を入手して驚いた。philosophia は、Gacumono sugi, bannotno rino aqiramura gacumon (つまり、「学文の好き」「万物の理を明らむる学文」と、明治時代より三〇〇年も前に、すでに実に見事な翻訳がなされていたのである。西欧ではまだデカルトも登場していない時期なのに、日本では西洋の学問についてかなり深い理解が成立していたことを物語っている。キリスト教に対する当時の仏教徒たちの議論も実にレベルが高い。日本もなかなかやるじゃないか、と楽しくなっていた。

そんなことを考えているうちに、行きつけの骨

董店に紀元前後のガンダーラ (現パキスタン) 美術石仏の实物が入ってきていたのだが、それを見て驚いた。仏陀がギリシャ風の学者やコリント様式の柱に囲まれているのである。《仏像》というのが発生したのは、アレクサンダー大王の遠征で仏教がギリシャ彫刻と出合った紀元前のガンダーラ地方である、と知識としては知っていた。だが、奈良や京都や鎌倉で見る《純》日本風仏像の淵源にギリシャ彫刻が在ったことを、このガンダーラ石像は雄弁に物語っている。

洋の東西の影響・交流関係は、調べれば調べるほど、自分のこれまでの常識的理解が破壊されて、とても興味深い。

さて、ガンダーラ仏のほとんどがそうであるように、この石像も人物の鼻は異教徒によって削り取られている。タリバンによるバーミヤン大仏破壊が記憶に新しいが、シルクロードの要衝だったこの地方の豊かさと過酷さを思わずにはいられない。



2004 Masao Kurosaki
ガンダーラ石仏（1-4世紀頃）片岩
高さ15.5cm 幅28cm

くろさき・まさお

1954年仙台市生まれ。東京女子大学文理学部哲学科教授。
専門はカント。東京大学文学部哲学科卒、同大学院哲学博士課程修了。
パソコン、人工知能、モード、電子メディア論、生命倫理、
複雑系など幅広い関心をもつ。著書に「哲学者はアンドロイドの夢を見たか」
「デジタルを哲学する」など多数。現在、NHK教育テレビ「サイエンスZERO」に
レギュラーコメンテーターとして出演中。

